

# 滋賀

## びわこの

## 考湖学

—第3部—

29

農耕の開始は、人類史に不可逆な進歩をもたらした大事件です。日本ではコメが政治的・経済的に重要な位置を占めてきましたから、農耕を稲作と読み替えて弥生時代を農耕の始まりとするのが定説です。しかし、縄文時代にはなんらかの栽培・農耕が行われていたとする説は古くから提唱されてきました。農耕＝稲作＝弥生時代という定説に

対する異論として提起されています。縄文時代中期の八ヶ岳山麓や後・晩期の九州に大規模な縄文遺跡が形成された背景として農耕を想定する

ものです。また、東アジアの民族例から水田稲作のまえに焼畑農耕がおこなわれたと想定する説もあります。植物地理学では雑穀の一種であるヒエが日本列島で独自に栽培化されたという学説があり、北海道を中心に縄文時代のヒエの出土例

### 粟津貝塚

が報告されています。さらに、花粉分析によって縄文時代前期の三内丸山遺跡の周囲には半人工的なクリ林が形成されていたとする推定も無視できません。栽培

粟津貝塚出土の穀物粒



82a



## 2粒の穀物がもつ意味……

りについては多様な論点から議論されるようになり、考古学においても遺跡出土の植物遺存体に対して以前にもまして注意が払われるようになりました。発掘調査で発掘した土を水洗・ふるいがけして種子などを取り出し、綿密に検討することは早くから行われていました。トチはトチ餅な類・同定できる人が少なかつたことから長い間普及しませんでした。粟津貝塚では縄文時代中期に食用利用

された木の実の殻が良好な状態で保存されていたの1669個分のイチイガシの殻が出土したことと比べ、ゼロに等しい数です。あまりに少ないので、後世の混入であると疑われても

ニュースのご連絡は  
大津支局  
〒520-0043  
大津市中央1-3-2  
077(522)6628(代)  
(522)2689  
FAX 077(522)6710

通信部・駐在  
彦根 0749(24)4477  
湖南 077(564)7500

広告のご用は  
077(594)6223  
購読の申し込みは  
0120(34)3733

おかしくありませんが、長期間にわたって水流のある湖底に水没していた状況では混入は考えにくいと思います。発見当時はこの重要性を認めながらも、よそから持ち込まれた可能性や、貝塚の周辺で栽培種に似た進化をとげた野生種である可能性なども考慮して、粟津貝塚で穀物栽培が行われた証拠にはならないと判断しました。粟津貝塚の調査と同じ頃、ほかの縄文遺跡でも稲や雑穀類の発見が相次ぎましたが、近年の高精度放射線炭素年代測定などによって新しい時代のものとの混入と判断されています。粟津貝塚の穀物粒も再検討の必要があるかもしれせん。(財団法人滋賀県文化財保護協会 伊庭功)